





世尊寺法書卷第九

十三代正二位行忠卿書

上毛町田清興審定

藤原乃資道は將軍

れこたに竹光下りしき序

おたよあ幸わつり子十三

はし將軍の陳仲子

あらしよるむ名もは

らなむしゆか素半

とくわ小將軍資道氏
たしていふやう武衛家
衛こよまの落了了也

いふとくさといふ名も

名もいふとくさといふ名も

たしていふやう武衛家

あつるくし。以て資道こ
乃よりを専行決人あや
しくおもふともし將軍也

をさしてのまににがま
をよみかへつきてた乃く
をを河あつるくし

う乃あ。月か心落けり
人形を祓ふれと木

もくもくそく寒乃

ちりちりんまおまかこく

天道持平所心

冬十宮給計るもあや雪

あつてあるは

武衛家衛食物

ふまへくは中て寛

治又年十一月十四日

奉つ外子落札をぬ

城中乃家きり

火をうつる煙此

中より生れさる

一なる事 地獄乃

之をよむる事

之れを樹乃玉成

之を樹乃玉成 將

軍此無之相を

あゝうんかかけて城

乃一毛よそ志

之方以又城中之み

幸れ入て敵妻ふらる

者付子力の一一人

たふぬ武衛 月守て

城乃沖下り 泡乃

あらし計名小飛 馳

いさそふあり下り 沉多

かたを共森子かく

てなふ名各とて 見えん

ふれてう氣ちかむ

川に舟見つて空て池

よあし本てい空

とみ志川又子程

おろしく生庸子

きれぬ家衝は花

柑子とよ馬をたむ

とらとらけら六郡

第一乃馬ふらこれ

ふらとらとら妻女子

とらとら利月とら

とらとら馬歌とら

うむ事祢くせ

とてつるまは後けて

射つて射るつ

さてあやしくまはの

まはをして替目とせ

のまはり市中

羨女とては 吾はとて

とて 陳乃とて

升とて 男とて

とて 粹とて

とて 先は後

とて 久

十四代 逆二位行俊卿書

後去三日。經迴白河邊。依
叅勅法勝寺。御八海也。殘異
未盡。如恙。如櫛。連日。安。付。

間。行。相。月。圓。勅。之。背。就。中
南北龍馬。年。才。關。智。府。席
美。人。筋。力。已。疲。柳。結。願。之。日
可有射山之臨。幸。云。云。今。著。日

未之世嘗來不能晴儀之修身
御法服一具借給乎收好
朽華之體而免打架之第也
所為也然

古
白
么

斗
小野
法
精
清
原

下へ宛てて
ぬ

あまた
此

あ
あ

野
も
も

は
は
は

源
人

十五代後二位行豐卿書

復案叢篇云經教百歲之後外神祭
法興隆之刻天魔得便焚燒仙像經
典殲滅堂塔僧房人法共毀沒當此
時豈無必目任者定之能損一塵
自可免此決于茲還系本交右抽信
誠門人口書寺家長老志著身宿老伏
弟讓之就中有育者力取道心力宗將補
力未但古不徒象形亦可憊序約和順為係
共依導書一人勝己之者專亦可嫉妬但不任
山者雖當其仁都不用兼復心獨立自悟之

古今和歌集卷第十
物名

うしろいす

藤原のうしろいすの御

うしろいすのうしろいすの御

うしろいすのうしろいすの御

うしろいす

うしろいすのうしろいすの御

うしろいすのうしろいすの御

うしろいす

藤原のうしろいす

うしろいすのうしろいすの御

八月のうしろいすの御

うしろいすのうしろいすの御

十六代正二位行康卿書

柳 輕 丁 入 以

二 平 三 吸 名 之

御 等 諸 類

非 至 恐 怪 非

祥
見
後
方

一
し
西
新
と
子

美
袖
袖
後
方

心
し
く
し
く

ふ
り
か
ら
か

十七代正二位行季卿書

竹院君閑

消永日

華亭我醉

送殘春

あ
あ
あ
あ
あ

に
あ
あ
あ

あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ

あ
あ

九廿二

か
ら
の
り

寬政八年丙辰六月五日
毛持田循勒成好古堂

